

傾向と対策 2024

[入試科目別傾向と対策]

〔公募制推薦入試Ⅰ期(教科型)〕

■英語		20
■数学		22
■国語		24

※傾向と対策作成：河合塾グループ 株式会社 KEI アドバンス

英語

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
公募制推薦	第1問	空所補充問題（文法・語法，語彙）	やや易
	第2問	整序英作文問題（文法・語法，語彙）	やや易
	第3問	対話文完成問題	標準
	第4問	会話文および広告読解問題	標準
	第5問	長文読解問題	標準
	第6問	長文読解問題	標準

●出題形式

相山女学園大学の公募制推薦入試には、「教科型」と「総合型」（ともにⅠ期）があり、英語が課されるのは、学習成績の状況による推薦基準のない「教科型」のみである。受験科目は、国語、数学、英語の中から2教科2科目を受験当日に試験場において選択する。試験時間は2科目併せて連続した120分となっており、したがって、1科目あたり60分程度が解答時間の目安となる。なお、科目間の問題難易度の差による有利不利をなくするため、得点調整を行う場合があり、その調整方法も公にされている。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ（リスニングを課さない）

b. 出題内容（大問構成）

文法・語法空所補充問題1題、整序英作文問題1題、短めの対話文完成問題1題、長めの会話文読解問題と広告読解問題によって構成された大問が1題、長文読解問題2題の計6題（小問数は40問）

●問題の傾向

第1問は、単文中の空所に適切な語句を補充する形式である。高等学校で習得すべき語彙や表現、文法事項が出題されており、教科書および準拠のテキスト、演習問題集と同程度の難易度である。テキスト以外の教材などで見られる応用が必要な観点は出題されていないので、授業で学習したことを活用すれば正解できる。第2問は整序英作文問題で、単文中に設けられた5つの空所に、5つの選択肢を入れて英文を完成させる形式である。日本語訳がなく、戸惑う受験生もいるかもしれないが、第1問同様、授業で学習した語彙や表現、熟語の知識に加え、文法の知識を活用すれば無理なく正解できる問題である。第3問は、2人の話者による1往復～1往復半の対話内に設けられた空所を補う形式である。授業では見かけない口語的な表現があったり、学習した受け答えの通りの対話表現でないものがあったりするものの、学習したことを軸に対話の流れを阻害する選択肢を消去していけば、自然な対話を構成する選択肢を選ぶことができる。第4問は、長めの会話文読解問題と、英語で書かれたお知らせを題材とした広告読解問題の2つの形式で構成されている。会話文読解問題では、文章中の空所への適切な表現の補充、下線部の表現が意図している意味内容に類する表現の選択、文章の内容に関する問いへの回答として適切なものを選ぶ問題で構成されている。話題は身近なものが選択されているが、会話の内容が二転三転していることもあり、表面的な読解だけでは正解となる選択肢を選べないことも考えられる。よって、会話文であるとはいえ、2人の話者の考えや立ち位置をその都度整理しながら、できればメモを取りつつ読み進めたい。広告読解問題では、比較的単純な構成の広告が用いられているため、情報の混乱が生じることは少ないが、設問文の条件を見過ぐすと誤った選択肢を選ぶ原因となる場合もあるため、広告同様に設問文も丁寧に読解したほうがよい。第5・6問は、入試標準程度の長さの文章を用いた設問が10問ずつ用意されており、それぞれ、文章中の空所を補充する問題、下線の意味を問う問題、内容真偽に関する問題、文章にふさわしい表題を選ぶ問題が出題されている。文章量に不安を感じるかもしれないが、設問部以外で語彙・表現において入試標準レベルを逸脱するようなものはほとんど見られないので、上位の単語帳などを用いた特別な対策は必要なく、きちんと読み進められる。総じて、日ごろの学習をきちんと実践・復習し、丁寧な勉強をやっていることを前提とした入試問題であるといえる。

●難易度

入試標準レベルまでで正解できる設問で構成されているが、一般入試と同形式かつ同程度の分量であるため、大学入学共通テストと同レベルである。

英語

学習対策

とにかく、今まで学習したことを徹底して確認することが合格の確実な要因かつ近道であると言える。市販の参考書を用いた入試演習やより上位の単語帳に取り組むよりも、高等学校で学んだことや教科書、テキスト、問題集に忠実に取り組み、わからないことやできないものがないようにしておくことがより大切である。

●毎日の学習に取り組む姿勢を見直し、やったことを必ず復習する習慣をつけよう

日ごろから地道な学習計画と学習活動を行うことは、大学入学後の学習と勉強に必ず有益である。確かに、「教科型」の推薦入試では学習成績の状況による推薦基準はないが(一部学科を除く)、高等学校の履修事項を逸脱しない丁寧な作問や細やかな配慮による出題観点は、「この試験で出題されていることにきちんと正答できるような学習習慣が身についている学生が欲しい」というメッセージであると解釈できる。つまり、基礎・基本を活用して問題を解くことが出題の背景となっており、学生の本分である勉学に対して真摯に取り組む、大学入学後も地道に学習活動を継続できる学生を欲している、ということである。一般的に、問題の難度を下げるには、出題量を抑えたり、出題形式をより容易なものにしたりするのだが、相山女学園大学の推薦入試では、一般入試と同じ形式と出題量で出題されている。ということは、一般入試で合格してきた学生と同じように、大学の勉学を実践できる学生が欲しい、とも解釈できる。教科・科目の不得手を自身で克服しようと努力する大学生として活躍できるように、今まで行ってきた自身の学習活動を振り返り、改善の余地が少しでもあるならば、より良い学習習慣へと改革し、入学後もその活動を継続でき、さらによりものへと変化し続けられるような態勢を今のうちに整えておこう。そうすれば、合格に必要な学力が自ずと培われるだけでなく、大学入学後に勉強面で不安になることが格段に減るだろう。

●高等学校で学習したものは、教科書からプリントまでしっかりと何度も復習しておこう

一般入試と同形式ではあるが、出題の観点や語彙・表現のレベルなどで教科書や準拠のテキストを超えるものはほとんどなく、また、そうでない設問であっても、学習した知識を活用すれば十分に正解できるものばかりである。つまり、授業の予習・復習を土台とした、授業中心の学習習慣によって、高等学校で教わることを確実に習得していれば、正答できる問題ばかり、ということである。教科書や準拠のテキストにあがっている知識や問題はもちろん、高等学校の先生方が作成されたプリントや定期試験もフル活用し、既習事項における漏れがないように、基礎・基本を徹底しておくことが最も大切な対策である。

●対策がある程度出来上がったなら、一般入試の問題を解いておこう

推薦入試であろうが一般入試であろうが、大学に入学してしまえば同じスタートラインに立った学生である。その先に待っている勉学に差はない。そうであれば、推薦入試に臨む前に、一度、一般入試の問題を解いておくのがよい。まず、形式が同じであるので、推薦入試の練習には最適である。相山女学園大学のような、多角的な出題形式をある程度タイトな制限時間で解答しなければならない入試問題はなかなかない。加えて、入学後に一般入試を勝ち抜いてきた同期と切磋琢磨すべきことは明白である。合格はゴールではなくスタートであり、今までの学習生活や態度を踏まえて総合的に選抜する試験であることを考えれば、大学生の自分を見据えて、地道に勉学に励む姿勢と気持ちを持ち続けることこそが、推薦入試で注目されるべき最大の観点である。これらを踏まえ、推薦入試の学力試験でより良い成績を収めるためにも、学習してきたことをなるべく早く完成させ、一般入試でもクリアできる学力を目指して取り組んでおいたほうがよい。努力は必ず自身に利益をもたらしてくれることは、推薦入試に臨む者ならば誰もがわかっていることである。

数 学

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
公募制推薦	第1問	数学Ⅰ・A 数と式／場合の数と確率／データの分析	易
	第2問	数学Ⅰ 2次関数	やや易
	第3問	数学Ⅰ 図形と計量	やや易
	第4問	数学A 図形の性質	やや易

●出題形式

試験時間は2科目で120分なので、数学にかけられる時間は概ね60分で、大問4題すべてを解答する形式である。解答形式は、当てはまる数値または適切な選択肢の番号をマークするマークシート方式である。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

数学Ⅰ・数学A（場合の数と確率・図形の性質）

b. 出題内容

2024年度の公募制推薦入試で出題範囲から出題がなかった単元は「命題と集合」のみであり、概ね全範囲からの出題があった。

●問題の傾向

2024年度公募制推薦入試の第1問は小問集合であり、小問数は3、各小問で1つの単元に関する独立した問いが出題され、第2問以降は単独テーマ問題が出題されている。また、第1問以外はすべて図形に関する問いが出題されている。

●難易度

2024年度公募制推薦入試は第1問が教科書レベルの基本事項・基本解法を確認する問題、第2問は入試における典型問題で基礎的な内容がほとんどである。また、第3問と第4問はやや複雑な図形が登場し、一見すると難しそうだが、前問を利用しながら解く問題が多く、問題の流れに乗れるか否かがポイントである。

数 学**学習対策****●基礎固めから始めよう**

公募制推薦入試では基礎～標準問題の出題がメインである。したがって、教科書の内容をしっかりと理解し、定理や公式を正確に使えるようになることが肝要である。まずは、基本事項の確認からスタートしよう。教科書の章末問題を一通り自力で解けるようになることが1つの目標である。

また、教科書による演習と並行して教科書傍用問題集によるトレーニングも効果的である。傍用問題集で解けなかった問題は教科書に立ち返って確認するようにし、わからない部分があれば高等学校の先生などに質問してみよう。これを繰り返すことで、基礎力は完璧になる。わからないままにしておくことは最も危険である。

●計算力を身につけよう

日々の勉強で意識してほしいのが『計算力』である。基礎～標準問題の出題がメインの入試は、計算ミスが合否を分けると言っても過言ではない。計算力の獲得のために、一日に数題でよいので計算問題に取り組むようにしよう。毎日の学習の中で、計算ミスを「ミスをしただけ」と片付けるのではなく、「何故ミスをしたのか」を自分で考え、対策を講じていくことが肝要である。

●最後に

公募制推薦入試は難問や奇問といった特殊な問題は出題されず、日々の学習の取り組みが合否に直結する試験である。特別な対策をするというよりは、基本に忠実に勉強を積み重ねていけば合格に近づいていくはずである。毎日の学習を大切に、1つずつできることを増やしてってもらいたい。

国 語

出題傾向

入試日程	大問	出典	難易度
公募制推薦	第一問	中島岳志『思いがけず利他』	標準
	第二問	ベンジャミン・クリツァー『21世紀の道徳』	標準

●出題形式

長文形式の総合問題であり、基本的に五肢択一（一部の空所補充問題を除く）のマークシート方式である。2つの大問で構成されており、2題とも現代文の範囲から評論文が出題された。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

現代文は評論文のみが出題されている。古文・漢文は出題されていない。

b. 出題内容

評論文形式の現代文が2題出題され、2024年度は「利他と互惠」に関する政治論からの文章と、「哲学を学ぶことの意義」に関する文章が出題された。2題とも抽象的な用語が多数飛び交う文章であったが、いずれも平易な文体と丁寧な説明で書かれており、論旨が理解しやすく、設問の難易度も標準的であった。

●問題の傾向

設問は、漢字、語句の意味、語句や文の空所補充、傍線部の内容説明または理由説明、内容一致（不一致）など、いずれも現代文入試では定番のものである。設問数は第一問が10問（マーク数13）、第二問が12問（マーク数15）。解答形式はすべてマークシート方式（原則として五肢択一）である。

第一問の文字数は約4,000字程度。設問内容は漢字の書き取り、空所補充問題（語句・短文）、内容理解に関する問題、問題文全体の内容一致（不一致）などである。第二問の文字数は約3,400字程度で、設問内容は第一問の内容に加えて、漢字の読み、語句の意味に関する問題も出題されている。

●難易度

2024年の公募制推薦入試は、第一問は「間接的利他」「合理的利他主義」などやや抽象度の高い用語が用いられており、第二問に関しても「哲学を学ぶことの意義」というシンプルな議論では展開され得ないテーマの文章が出題された。しかし、前述のように文章の難解さはなく、設問も本文の内容が忠実に反映された良問揃いのものばかりであった。総じて標準的な難易度の出題であったと言える。

国語

学習対策

●筆者のイイタイコトをつかまえよう

評論の筆者は自分の抽象的な意見（イイタイコト）を読者に伝えるために文章を書く。しかし、それをそのままぶつけても大半の人には理解してもらえない。そこで、具体例をあげたり、自分のイイタイコトと対比されるものを提示し、それと比較させたりすることで、自分の意見をより明確に表現しようとする。入試の現代文は、その筆者のイイタイコト、論の展開を受験生がしっかり把握できたかどうかを確かめるために設問が作られている。よって、問題を解く際は、まず何がテーマ（話題）になっているのかを確認し、具体例と抽象的表現の区別、および筆者のイイタイコトと対比概念との区別を行いながら、筆者の論の展開を正確に把握するようにしよう。そのためには、普段から新書レベルの読書を心がけ、ただ漫然と読むのではなく、各章・各節で上記のことを意識するとよい。問題集に取り組む際も同様である。

●幅広く国語の知識を身につけよう

相山女学園大学では、第一問・第二問を通して漢字や語句の意味など、知識を問う設問も出題されている。漢字の問題集や国語知識の問題集に取り組み、評論文で頻繁に用いられる語句などをマスターするとよい。また普段の生活や読書を通して、知らない言葉や事項に出会ったら、こまめに辞書や国語便覧で調べるなどして、語彙力や知識を身につけるよう心がけよう。漢字の問題集に取り組む際も同様である。

●マークシート方式の問題に慣れよう

大学入学共通テスト対策の問題集やマークシート方式の私立大学対策問題集に取り組もう。ただし、やみくもに問題文を読んで、漠然とした理解のまま選択肢を選んではいならない。繰り返しになるが、その文章のテーマが何で、どういう論理展開で、どんな結論（イイタイコト）を導いているのかを把握したうえで設問に取り組むこと。マークシート方式の問題は上記のことが押さえられていれば選択肢を1つに絞れるように作られている。迷ったときには、選択肢をじっくり見て考えこむのではなく、設問が何を問うているかを押さえたうえで、常に本文に立ち戻り、本文と選択肢、選択肢相互の異同を照合して判断するようにすること。また全体の設問量が多いので、過去問に取り組んで、時間配分の練習をしておくとうい。

●ややレベルの高い新書の読書を

相山女学園大学では、日常生活では目にすることの少ない抽象的なテーマの文章が出題される。そのうえ、内容説明問題や理由説明問題、問題文全体の内容一致（不一致）問題に関しては、しっかり本文を理解していないと選択肢を選べないような設問がほとんどである。普段からややレベルの高い新書などを積極的に選んで読書をするとうい。